

茶室

茶室は報国寺の中で最も新しい建造物の 1 つで、周囲に自然に溶け込むように設計されました。木造で屋根はカーブしており、これは周囲で風に揺れる竹を模したものです。茶室は開放的な設計で、扉や窓はありません。これは、室内の空間を庭自体の延長であるように感じさせるためです。席は全て庭の方向を向いており、竹林の最高の眺めを楽しめます。軽食を楽しみながら静かにリラックスするのにぴったりの場所です。

抹茶は伝統的な様式で提供されます。抹茶の粉を陶器の茶碗で溶かして泡だてたものが、和菓子と一緒に出されます。提供される和菓子は落雁で、これは砂糖などを混ぜたものを木の型で押しかためて、春なら桜のように季節を感じさせる形にしたものです。まず和菓子を食べ、それから抹茶を飲むのが作法となっています。暖かい抹茶は常に注文を受けてから準備されます。

抹茶を提供するのに使われる木のお盆は、地元の職人が作ったもので、鎌倉で発展した漆器の種類である鎌倉彫の例となっています。それぞれに特有の模様が彫り込まれています。抹茶を楽しむため、そして竹林に入るためには、別の入場券が必要です。